

## 令和2年度 第1回 向日市子ども・子育て会議

○日 時 令和2年11月12日(木) 午後2時30分～午後4時

○場 所 向日市福祉会館 大会議室

○出席者 (出席委員14名)

足立阿季子委員、安藤和彦委員(会長)、岩野修委員、海東紗代子委員、加原ゆり委員、木村友香梨委員、清水章委員、高山紀公子委員、田中久美子委員、津田陽委員、野田昌之委員、春田由香里委員、宮地健一委員、山道理詠委員  
(50音順)

(事務局12人)

### 【市民サービス部】

小賀野市民サービス部長、川本市民サービス部副部長、柴田福祉事務所長、長谷川健康推進課長、岡本障がい者支援課長、岩谷障がい者支援課副課長、松山子育て支援課長、橋本保育係長、荒賀子育て支援係長、中川子育て支援課主査

### 【教育部】

長谷川教育総務課長、鹿島生涯学習課長

○欠席者 (委員5人)

風谷千賀子委員、築山剛委員、花安肇委員、船倉哲生委員、余根田聡委員  
(50音順)

○傍聴者 0名

○議 題

- (1) 会長の選任について
- (2) 令和元年度「向日市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況について
- (3) 令和2年度「第2期向日市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況について
- (4) 保育所定員について

議題1 会長の選任について	
事務局	会長選出についてどのように進めるかご意見をいただきたい。
委員	事務局に一任します。

事務局	学識経験豊富な安藤委員にお願いしたい。
委員	拍手にて賛同
議題2 令和元年度子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について	
事務局	資料2を用いて事務局から説明。
委員	<p><b>(資料2についての主な質疑・意見)</b></p> <p>38番「利用者支援事業」について、市が国の枠組みと離れてやっているか、地域とかかかわっているか、一部に任せきりになっていないかというのがチェック項目である。</p> <p>3番「プレママスクール、プレママクッキング」について、父親の参加が7人である。5か年計画で、父親を参加させようという目標にしている。この評価についてはある程度人数設定をしてほしい。</p> <p>33番「地域子育て支援拠点事業」について、子育て支援拠点の基本目標は、お母さんと子どもが楽しく遊ぶことである。</p> <p>子育て支援センターの役割はお母さんの問いかけに答えること。その研修が必要である。</p>
委員	<p>3番「プレママスクール・プレママクッキング」について、参加しやすい環境に配慮するには、開催の時間帯が重要であるが、どんな工夫をしているのか。</p> <p>24番「学校教育の充実」の不登校の減少率について、何人ぐらい減ったか。長期というのは何か月くらいなのか。</p>
事務局	プレママスクールについては、3回シリーズで4クール行っている。どの回からでも参加できるようになっており、部分的にも参加できる形をとっている。
委員	地域子育て支援拠点では土曜日と平日に開催している。土曜日はお父さんと一緒に参加を呼びかけている。
委員	<p>発達検査、療育相談について充実しているといえるのか。集団の中で初めて現れる子がいる。</p> <p>44番「児童発達支援」について、質の担保をどうしていくのか。向日が丘支援学校の改築をどうしていくのか。発達を将来を見据えた視点で見てくれるような人が必要である。向日が丘支援学校の改築について、向日市からも声を出していただきたい</p>

	<p>いと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>達成のところは数値が書かれているが、数値になじまないものもある。当初、こういう状態になったら達成という状態を決めていたか。一部達成の様子をもう少し詳しく知りたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>達成判断基準値等は決めていなかったと思われる。</p>
<p>事務局</p>	<p>数値だけで判断できるものでもない。中身で判断しなければならないものもある。事業もたくさんあるので全てについて基準を定めるのは難しい。不登校の出現率については、向日市だけでなく、不登校は増えつつあり、原因も複数まじりあっている。数字だけみると減っていないため、一部達成になっている。</p> <p>82番「安全な道路環境の整備」については、財源や用地の確保が課題である。順次、道路全体の見直しは行っているが、予算や用地の関係もあり、できていないところもある。</p>
<p>事務局</p>	<p>71、72、75番の効果的な情報提供については、資料の配架等はしているが、それが効果的な周知なのか、判断しかねるため、一部達成になっている。</p>
<p>事務局</p>	<p>54番「発達障害に対する理解促進」について、情報の提供や周知には努めているが、事業所の中に一部ばらつきがあるため、一部達成としている。</p>
<p>委員</p>	<p>成長と教育と保健の関係について、医療関係者の理解を深めてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>9「健康相談事業」について、14回で561人とあるが、これは体重測定などの数ではないか。発達の相談となるとこんなにはできない。</p> <p>地域子育て支援拠点の利用者は、赤ちゃんが多いので確定の診断がでない。グレーゾーンの方が多くなっている。</p> <p>利用者支援事業について、新しい社会資源の創出として「すくすくガイド」を発行している。今後は、IT化も考えている。</p> <p>地域子育て支援拠点の状況について、コロナの関係で妊婦さんの利用が前から少ないがより減ってきている。</p>
<p>事務局</p>	<p>健康相談について、ここに書いている14回は、健康相談の数字である。それ以外のことばの相談などは、年間350人ぐらいの子どもが相談に来ていて、毎年回数</p>

委員	<p>を増やしている。</p> <p>子どもに関する施策がたくさんあることに感謝している。24「学校教育の充実」について、不登校の減少には苦勞されていると思う。受け皿としての適応指導教室や放課後デイサービスについても記載してほしい。</p>
<p>&lt;議題3&gt;令和2年度「第2期向日市子ども・子育て支援事業計画」の進捗状況について</p>	
事務局	<p>第2期計画書のP71について訂正及び資料3について説明。</p> <p><b>(資料3についての主な質疑・意見)</b></p> <p>委員 第2期の計画はきれめない支援を行うことにしている。第2期については、それを報告してほしい。第1期では子どもの各年代の事業ができた。次はそれをつなげる視点について議論すべきである。</p> <p>事務局 資料2の8番「養育支援訪問」について、関係機関との連携はこれで良い。継続の視点プラス施設に繋げるという視点が必要である。</p> <p>事務局 子育てコンシェルジュがいる。家庭訪問も行っており、必要な機関とは、連携を行っている。表記の仕方であって、現場としてはかなり蜜にやっている。</p>
<p>&lt;議題4&gt;保育所定員について</p>	
事務局	<p>資料4について説明。</p> <p>恒常的に引き下げるのは待機児童もあるので難しい。今年度限りと認識している。保育士確保について、何かしら手を打たないといけないと思っている。</p> <p><b>(資料4についての主な質疑・意見)</b></p> <p>委員 近隣市との兼ね合いで確保するのが難しい状況である。</p> <p>会長 そもそも保育士になりたい子が減っている。良い案があれば事務局へ。他にないようであれば、これを持って終了します。事務局より連絡事項はあるか。</p> <p>事務局 次回の開催予定について説明。</p> <p>以 上</p>